



本書では、安全な走行や簡単な点検方法など、商品の正しい使用法を解説しています。より快適に、安全にお使いいただくためにも、このマニュアルを注意深くお読み下さい。

快適にご使用いただくためにも、ご担当の SYM 販売店に本マニュアルを熟読いただき、特に以下の各項につき丁寧に扱うようご依頼ください。

- スクーターの正しい使用方法について。
- 納車前の点検および維持のための定期点検について。
- 保証の適用、内容、期間について。

● 商品の仕様と構造は予告なく変更されることがあります。この結果、ご所有の商品が本マニュアルやカタログで示されている写真ないしは図面等と異なる場合、実際の車両の諸元や部品、仕様等が優先されることを予めご了承ください。

◎ 安全のための注意事項（警告） ◎

SYM 商品を快適かつ安全にお使いいただくためにも、本書を熟読し、注意事項（警告）等についてよくご理解ください。特に安全についての注意事項では怪我等を受傷する可能性が示されています。安全に関する指摘には以下のような記号と説明が示されています。

！ 危険（CAUTION）

この注意に従わない場合、死亡事故を含む深刻な怪我を負う恐れがあります。

！ 警告（WARNING）

この注意に従わない場合、死亡事故を含む深刻な怪我を負う恐れがあります。

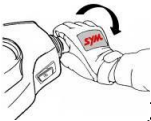
！ 注意（CAREFUL）

この注意に従わない場合、車両が破損する恐れがあります。

すべての警告には、具体的にどのような危険があり、どうすればそれを避ける、あるいは軽減できるかが示されています。また、上記 3 種の警告に加え、【警戒】レベルも想定されています。これも、注意事項に従わない場合、車両に損害を生じる可能性があります。

このスクーターに初めて乗る場合、以下の操作に十分注意してください。

アイドリングスタート&ストップモードで使用中：

メーター上のインジケータ	始動方法
 点滅	 スロットルを開ける、あるいは再始動
 オフ	再始動（スターターボタンを押す）

お分かりにならない場合、お買い求めの SYM 認定ディーラーにお問い合わせください。



1.目次

1. 目次	1
2. お乗りになる前に.....	3
3. 安全なライディングについて.....	3
4. 運転	4
5. 純正スペアパーツを使用すること	5
6. 部品の位置と操作	6
部品の位置	6
各部の操作について	7
メインスイッチ の操作	11
ハンドルバースイッチ	12
USB チャージ（充電） ユニット.....	13
フロントコンパートメント.....	13
燃料タンクキャップ	13
ヘルメットフック	14
ラゲッジボックス.....	14
ブレーキ	14
後席用フットレスト.....	14
7. エンジンの始動方法	15
8. スクーターの乗り方	15
9. 仕様	17
10.点検及び調整	18
定期点検について	18
エンジンオイルの点検と交換	18
エンジンオイルストレーナー洗浄.....	18
燃料の点検	19
トランスミッションオイルの点検と交換	19
ブレーキシステムの点検	19
スロットルの遊びの点検	21
バッテリーの点検.....	21
タイヤの点検.....	22
ステアリングおよびフロントフォークの点検	22
ヒューズの点検.....	23
ヘッドライトとテールライトの点検	23
ブレーキライトの点検.....	23



ターンライト（ウィンカー）とホーンの点検	23
燃料漏れの点検	23
全体の潤滑	24
スパークプラグの点検	24
冷却システムの点検	24
エアクリーナーの点検	25
11. スクーターを長持ちさせるために	26
洗車	26
駐車場の確保を。	27
12. トラブルシューティング	28
エンジンが始動しない場合	28
13. 定期メンテナンススケジュール	29



2.お乗りになる前に

本書では、安全な走行や簡単な点検方法など、商品の正しい使用法を解説しています。より快適に、安全にお使いいただくためにも、このマニュアルを注意深くお読み下さい。

今後快適にご使用いただくためにも、ご担当の SYM 正規販売店に本書を確実に読ませるようお願いいたします。とりわけ、以下 2 点が重要です。

- ・スクーターの正しい使用方法
- ・納車前点検と定期点検

SYM 商品をお選びいただき、ありがとうございます

あなたのスクーターの性能を最大限に引き出すためには定められた点検とメンテナンスを完全に行う必要があります。

新車から 300 キロメートルの走行後には、必ず初回点検を受けにご購入店に車両をお持ち込みください。また、その後は 1000 km 毎に定期的な点検を受けるようにしてください。

商品の仕様と構造は予告なく変更されることがあります。この結果、ご所有の商品が本マニュアルやカタログで示されている写真ないしは図面等と異なる場合、実際の車両の諸元や部品、仕様等が優先されることを予めご了承ください。

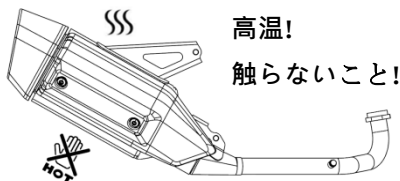
3.安全なライディングについて

運転する際は、リラックスし、正しい服装で、交通規制に従い、急がず、常に慎重に運転することが非常に重要です。

一般に、ほとんどのお客様は新しく購入したスクーターを非常に注意深く乗っていただけますが、慣れるにつれ、運転は無謀になりがちであり、事故に遭う可能性が高まるようです。

忘れずに!

- ・乗車用ヘルメットを着用すること。
- ・運転中は携帯電話を使用しないこと。
- ・制限速度を守ること。
- ・定期的なメンテナンスと検査を行うこと。

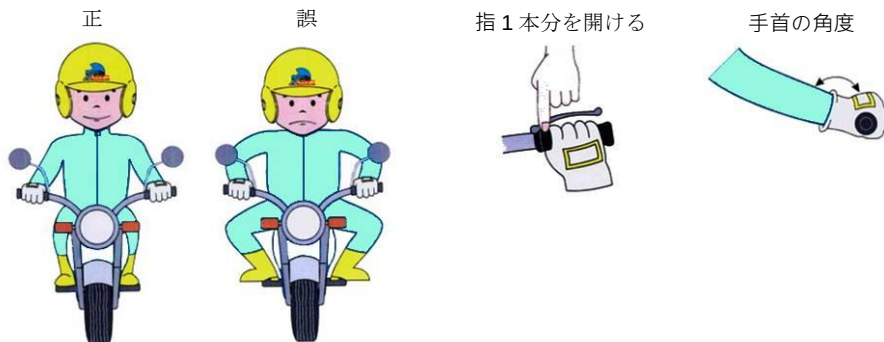


⚠ 警告!!

- ・ライダー、パッセンジャーのいずれも左側から乗車のこと。マフラーで火傷しないよう、必ずフットレストに足をのせること。
- ・歩行者の安全の確保のため、二人乗りしない場合はフットレストをもとの位置に戻すこと。
- ・走行後、マフラーは高温に達します。通行人などがマフラーに誤って接触し火傷を負うことがないよう、注意深く駐車位置を決めること。

4.運転

ライダーの姿勢は安全性に大きく影響します。常時車体の中心に体を保持するよう努めましょう。もし体が車体の後ろにあると、全輪の荷重が不足し、ハンドルに不要な振れを生じ、危険な状態に陥る恐れがあります。

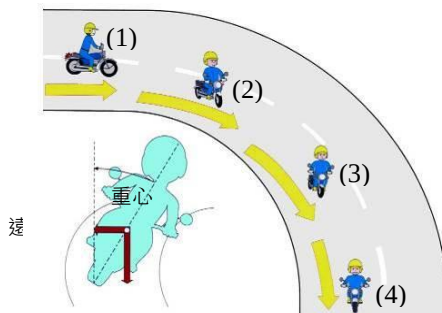


コーナリング

- カーブを曲がる時には、ライダーが回る方向に体を傾けると自然に旋回力を発生させることが可能です。一方、そうならない場合は車体の動きが不安定になります。

コーナリングの要点:

- ① カーブに入る前に減速。
- ② カーブの中では速度を一定に。
- ③ カーブの出口では適切に加速。
- ④ 直線区間では安全性を確認し再加速。



ブレーキング

- バイクを減速、停止させるためには必ず前後ブレーキの双方を使用してください。
- 急ブレーキや強すぎるブレーキは避け、均等にブレーキ力を与えること。
- ブレーキをロックさせないこと。
- 路面の条件が良い場合、フロントブレーキはややリアブレーキより強めに使うこと。
- 路面の条件次第で、ブレーキ力は適宜変化させること。
- 路面の条件が悪い場合、フロントブレーキへの入力はやや弱めること。





- スクーターは、凸凹な、不均一の、あるいは未舗装の路面では制御が困難な乗り物です。可能な限り事前に路面状況を把握し、肩の力をうまく使って運転しましょう。

⚠ 危険！

- 車体サイドカバーとエンジンの間に布などの可燃性のものを挟むなど、車両火災につながる恐れのある行為は慎むこと。
- 車両の損傷を避けるため、指定位置以外に荷物等を積載しないこと。
- 指定荷重を超えた積載は、車両の操作に影響を与える恐れがある。
- 重量物の積載はライダーが感じる車両の操作に少なからず影響する。過負荷は車両の運転や安全性を損なう恐れがある。
- 車両には一切改造を施さないこと。改造は、車両の構造や性能に影響を与え、エンジンの動作不良や排気騒音を生じうるばかりか、車両の寿命を縮めることにつながる。
- 万が一転倒した場合には、メインスイッチを一度切り、その後再度オンにしてエンジンを再始動させること。

忘れずに！

- 乗車時にはヘルメットを着用すること。
- 乗車前点検を確実にすること。
- 乗車時には安全距離を保って運転すること。
- 交差点を横断する場合は減速すること。
- 歩行者や車両の近辺では徐行すること。
- 改造は一切行わないこと。
- 朝方・夕方には必ずヘッドライト（前照灯）を点灯すること。
- 飲酒運転をしないこと。
- 運転中に携帯電話を使用しないこと。

5. 純正スเปアパーツを使用すること

このスクーターは、その設計された能力を最大限に発揮させるために、厳しい品質管理の下で製造された高品質な部品で構成されています。「SYM 純正部品」は、こうした構成部品と同様の基準で設計され、提供されます。いかなる部品も、設計基準を満たした上に、厳しい品質管理を受けない限り、市場に提供されることはありません。従いまして、「SYM 純正部品」は、SYM 正規販売網店からのみお買い求めください。もし純正部品ではない、格安な粗悪品をお求めになった場合、商品の品質は保証いたしかねますし、耐久性も期待できません。当然これはまたスクーターの性能の定価や予期せぬトラブルにつながる恐れもあります。



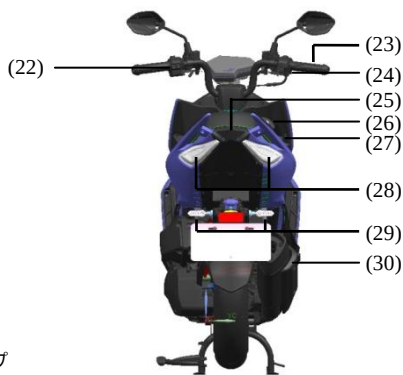
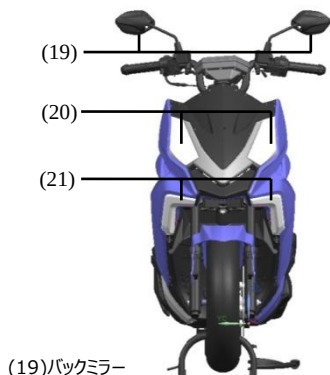
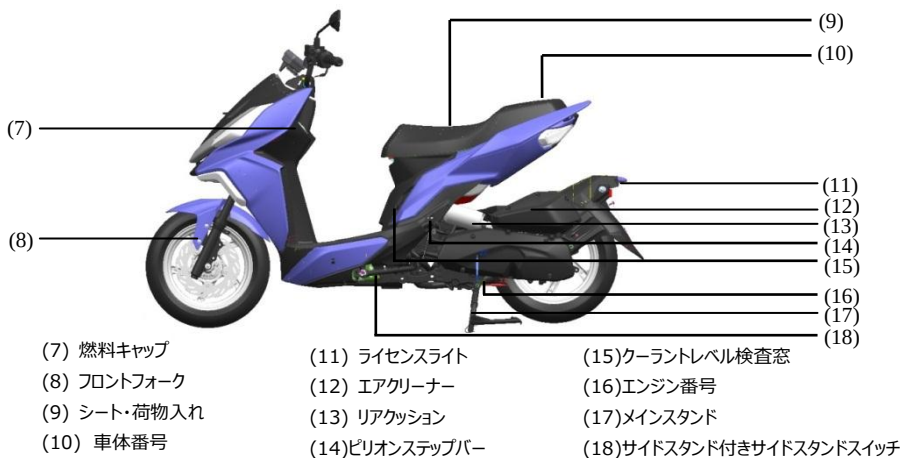
SANYANG
GENUINE PARTS



6. 部品の位置と操作

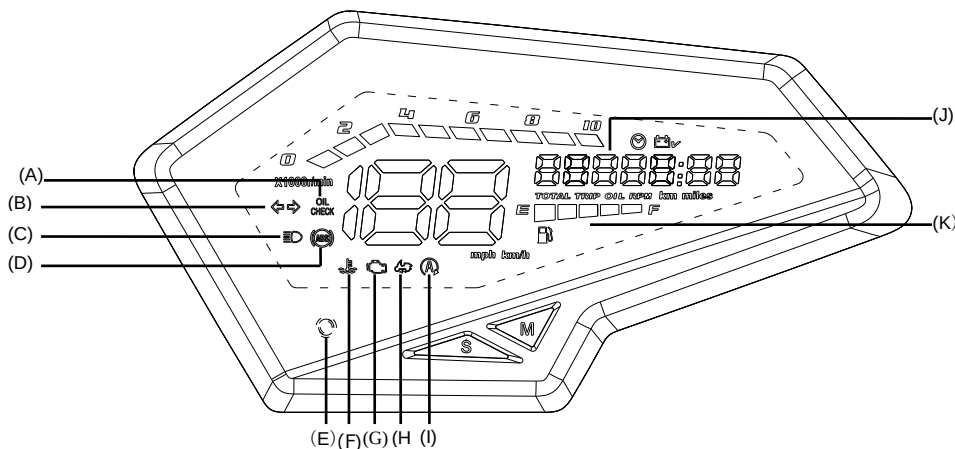
部品の位置

DRG BT



各部の操作について

LED スピードメーター



(A) オイルチェックランプ OIL CHECK

- ・オイルチェックランプは、走行 1000 km毎に点灯する機能を持っています。エンジンオイル点検/交換の目安に活用いただけます。
- ・このランプが点灯した場合は、必ずオイルレベルを点検し、またオイルの状態を確認してください。確実に 1000 km毎に点検できるよう、確認後はオイルメーターモードで S ボタンを素早く 2 度押し、リセットしてください。ランプは消灯し、その後 1000 km 走行後再び点灯します。

(B) ターンシグナルランプ

- ・ウィンカースイッチを右または左に押すと、対応するターンシグナルランプが点滅します。

(C) ハイビームインジケータ

- ・ヘッドライトが上向き（ハイビーム）の時に点灯します。

(D) ABS インジケータランプ

- ・メインスイッチ ON で点灯し、走り出すとすぐに消える ABS 警告灯です。もし ABS（アンチロックブレーキシステム）が正常に機能していれば、ランプは消灯されたままになります。ランプの店頭は ABS 機構の不具合を意味しますが、通常のブレーキは何ら問題なく機能しますのでご安心ください。

(E) 明度センサー

- ・ダッシュボード全体の明度を周囲の明るさに準じて自動的に変化させるためのセンサーです。

(F) エンジンオーバーヒートランプ

- ・エンジン冷却液（クーラント）が異常過熱状態の時に点灯します。クーラントレベルの点検を行い、異常等がある場合は SYM 取扱店にご相談ください。

(G) EFI 警告灯

- ・メインスイッチをオンにすると点灯し、エンジン始動後まもなく消灯します。EFI 機構（燃料供給装置）に異常がある場合は点灯しますので、必ずご購入店かお近くの SYM 販売店にご連絡ください。



(H) サイドスタンド警告灯

- サイドスタンドが引き出されているときは点灯します。この時、エンジンを始動することはできません。また、エンジン始動中にサイドスタンドを引き出した場合、エンジンは停止します。サイドスタンドが格納されると、警告灯は消灯します。

(I) アイドリングスタート&ストップインジケータライト

- アイドリングスタート&ストップモードを起動するために、まずスイッチを  の位置に合わせてください。アイドリングスタート&ストップモードを終了する場合には、スイッチを OFF の位置に戻してください。
- サイドスタンドが格納され、エンジンが始動して走り出し、設定した状態に達すると、アイドリングスタート&ストップモードが起動し、 が点灯します。
- 速度が 1km/h 未満または停止してアイドリング状態の時、アイドリングスタート&ストップインジケータ  が 3 回点滅し、エンジンは自動的に停止します。停止中、アイドリングスタート&ストップインジケータ  は点滅し続けます。走行中は、アイドリングスタート&ストップインジケータ  は点灯し続けます。
- アイドリングスタート&ストップモードでエンジンが停止している場合は、スロットルを少し開くか、ブレーキをかけながらエンジンスタートボタンを押すことで、エンジンを再始動させることが可能です。
- 長時間の停止状態からの誤作動保護機構：アイドリングスタート&ストップモードでエンジンが 4 分以上停止状態の場合、誤ってスロットルに触れたことによる再始動などを避けるため、アイドリングスタート&ストップモードは解除され、再始動は不可能になります。再始動には、ブレーキをかけた状態で、エンジンスタートボタンを押す必要があります。
- バイクを押している間の誤操作防止機構：アイドリングスタート&ストップモードでエンジンが停止しているときに、スクーターを 5 秒以上押すと、誤ってスロットルに手を触れエンジンが再始動してしまうことを防ぐため、アイドリングスタート&ストップモードが自動的にキャンセルされます。再始動には、ブレーキをかけた状態で、エンジンスタートボタンを押す必要があります。
- アイドリングスタート&ストップモードで、スロットルをわずかに開けてもエンジンを再起動できない場合には、アイドリングスタート&ストップモードをオフにして、お買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店に車両をお持ちになってください。

(J) オドメーター

- **TOTAL** : 総走行距離を示します。最大値は 99,999 km でこれを超えると 0 km に戻ります。
- **TRIP** : リセットされてからの走行距離を示します。最大値は 999.9 km でこれを超えると 0 km に戻ります。S ボタンを 2 秒以上連続して押すことでリセットが可能です。
- **OIL** : エンジンオイルの使用距離を示します。最大値は 9999.9 km でこれを超えると 0 km に戻ります。S ボタンを 2 度連続して押すことでリセットが可能です。
- **TOTAL / TRIP / OIL** : それぞれのモードは、M ボタンを押して切り替えます。

(K) 燃料ゲージ/残燃料警告灯

このデジタル燃料ゲージは、メインスイッチがオンになっているときに燃料の残量を 5 段階に表示します。F は満タン、E は空を意味します。残量警告灯はゲージが E に達すると点灯しますので、速やかに給油してください。

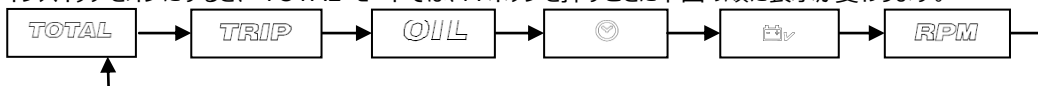


⚠危険【CAUTION】！！

- 初めてエンジンを始動するときには、メインキーを○位置に回し、ブレーキレバーを握り、スタートボタンを押してください。
- アイドリングスタート&ストップモードは、スイッチをⒶの位置に切り替え、エンジン始動後設定条件（十分な水温）に達することで、作動します。
- 安全のため、アイドリングストップからの再始動には必ずブレーキレバーを握ること。
- エンジン温度が低い場合や、前回のエンジン停止が EFI の管理下でなされていない場合、アイドリングスタート&ストップモードは起動しません。
- アイドリングスタート&ストップスイッチをオンにすると、アイドリング中にエンジンが停止するため、EFI システムはアイドル及び O2 センサー状況を適切に得られません。アイドリングスタート&ストップスイッチをオフにして、5,000km ごとにアイドルスピード学習を行うことをお勧めします。
- アイドル学習ステップが適切でない場合、エンジンの始動が難しくなる可能性があります。アイドル回転数が低すぎると判断すると、EFI システムは自動的にアイドリングスタート&ストップメカニズムをキャンセルします。これは、長期にわたって EFI がアイドリング状況を学習できていないためにおこる現象です。
- アイドリングスタート&ストップ機構は、メインキーをオフにし、再びオンにすると復帰させることが可能です。
- 車速はアイドリングスタート&ストップ機構を正確に作動させるためにも非常に重要です。車両の安全なご使用のためにも、スピードメーター等に異常を感じた場合には、直ちにご購入店にお問い合わせください。

ディスプレイシフト

メインスイッチをオンにすると、"TOTAL"モードでは、M ボタンを押すごとに下図の順に表示が変わります。



- TOTAL** : 車両の累積走行距離を示します。リセットはできません。
- TRIP** : 2 秒以上 S ボタンを押すことで、リセットできます。

時計の設定

- 時刻表示は 24 時間モードになっています。メインキーを ON にすることで表示されます。
- ☺ モードで、2 秒以上の間[M]ボタンを押すことで、時刻設定モードに入れます。S ボタンを素早く（約 0.5 秒）押すことで、時刻設定が可能になります（時→分（10 桁）→分（一桁）→終了）。いずれも、S ボタンを素早く（0.5 秒）押し下げること、1 桁ずつ数字が増えるように動作します。設定中に 30 秒以上操作しない状態が続くと、自動的に設定モードは終了され、当初の表示に戻ります。

バッテリー電圧ゲージ



- バッテリー電圧表示には、現在のバッテリー電圧が表示されます。時計モードにある時に、M ボタンを素早く押し下げ、バッテリーモードに入ってください。🔑 イグニッションキーが ON の位置にあれば、電圧計早く 10 秒作動します。

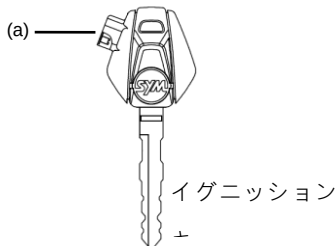
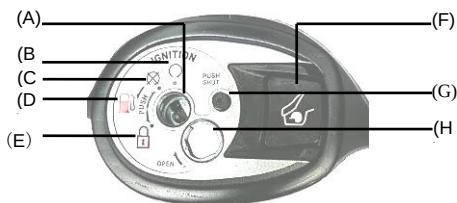
⚠ 危険【CAUTION】！！

- もしメインキーをオンにした時のバッテリー電圧が 11.5V 以下の場合は、お買い求めの販売店か、SYM 正規販売店に車両を点検のためお持ち込みください。
- エンジンが始動中にバッテリー電圧が 10.0V 以下または 15.0V を超える場合は、お買い求めの販売店か、SYM 正規販売店に車両を点検のためお持ち込みください。

⚠ 危険【CAUTION】！！

- スピードメーターやヘッドライト、およびその他のプラスチック製部品は、有機溶剤を使用しての洗車はお控えください。
- 湿度の高い状態で使用になられたときには、スピードメーターやライト内部に湿気が溜まり、場合によっては曇らせたり、水滴になる可能性があります。ただし、通常であれば湿度が落ち着くとともに改善されるはずであり、環境による正常な影響と考えられます。
- スクーターを使用する前に、スピードメーターの保護フィルムステッカーを剥がしてください。取り付けたまの場合、特に強い直射日光化や雨天時などに、メーターの視認性が悪化する恐れがあります。
- 最初の 300 キロでエンジンオイルを点検、交換してください。その後は、1,000 kmごとに点検してください。
- オイルチェックランプが、指定された走行距離に達しても点灯しない場合は、車両をお買い上げの販売店、若しくは SYM 正規取扱販売店にお持ちください。

メイン スイッチの操作について



(A)イグニッションキースロット

イグニッションキーの穴にイグニッションキーを挿入し、イグニッションスイッチを操作します。

(B) "オン" ポジション ○

エンジンはこの位置で始動できます。イグニッションキーはこの位置では抜くことはできません。

(C) "オフ" ポジション ⊗



エンジンはこの位置で停止することができます。イグニッションキーを抜くことができます。

(D) "燃料キャップ" オープナー

燃料キャップはこの位置で開けます。イグニッションキーを「オフ」の位置に回し、その後キーを押し込みながら時計回りに回してください。

(E) "ロック" 位置

ハンドルバーはこの位置でロックすることができます。イグニッションキーを「オフ」の位置に回してエンジンを停止します。ハンドルバーを完全に左に回します。イグニッションキーを反時計回りに押してハンドルバーをロックします。イグニッションキーはこの位置で取り外すことができます。ハンドルバーのロックを解除するには、イグニッションキーを時計回りに回して「オフ」の位置にします。

(F) "シートオープン"ボタン

イグニッションキーが「オン」の位置でこのボタンを押すと、シートが開きます。

(G) 磁気シャッター

[PUSH SHUT] ボタンを押してイグニッション キー スロットを閉じます。

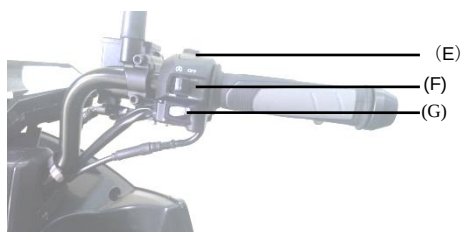
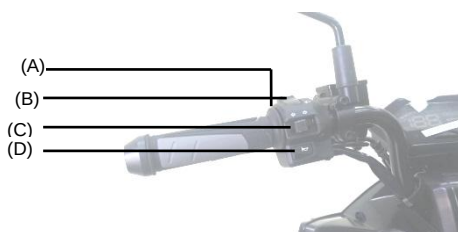
(H) シャッターオープナー

キーの ㊦ の位置をシャッタースロットに合わせ、シャッターキーを時計回りに回して開きます。

CAUTION:

- メインスイッチに貼り付いて故障の原因とならぬよう、メインスイッチの保護フィルムを取り外します。
- イグニッション・スイッチの操作性を妨げないよう、イグニッション・キーにキーホルダーなど、あまりにも多くの余計なものを取り付けしないでください。

ハンドルバースイッチ



(A) パッシングライトボタン

(B) デイマースイッチ

(C) ターンシグナルスイッチ

(D) ホーンボタン

(E) ハザードスイッチ

(F) アイドリングスタート/ストップスイッチ

(G) スターターボタン



DRL : 昼間時ランニングライトシステム

メインキーを「オン」の位置に回すと、ポジション灯、尾灯、ナンバー灯が同時に点灯します。

エンジンが始動すると、ヘッドライトが点灯します。メインキーを「オフ」に切り替えるまで、すべてのライトが点灯します。これは、昼間の視認性を高め、お客様の安全を担保するための仕組みです。

警告【WARNING】！！

メインキーを“「ON」”に設定すると、DRL が起動します。もしそのままの状態でもエンジンをかけないでいると、バッテリーは充電されず、場合によっては完全放電してしまう恐れがあります。

(A) パッシングライトボタン

PASS

パッシングライトボタンを押すと **PASS**、ヘッドライトが上向き（ハイビーム）になり、前方の車両や対向車にあらかじめ警告を与えることができます。ボタンから指を離すことで、元の状態に戻ります。

(B) デイマースイッチ

このスイッチでヘッドライトのハイビーム&ロービームを切り替えます。ヘッドライトがハイビーム  にある場合、ハイビームインジケータライトが点灯します。



High beam



Low beam

(C) ターンシグナルスイッチ

ターンシグナルスイッチを左  または右に回すと、 対応するターンシグナルが点滅します。点滅を停止するには、スイッチを押し込みます。

(D) ホーンボタン

イグニッションキーがオンになっているときにホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

(E) ハザードスイッチ

ハザードスイッチをオンにすると、すべてのターンシグナルライトとターンシグナルインジケータが点滅します。

このとき、メインキーを OFF 位置に切り替えてもハザード機能は継続されますから、バッテリー電力を消費し続けます。長時間使用しないでください。場合によってはエンジンを再始動できない可能性があります。ハザード機能をオフにするには、メインキーを ON の位置にしてキャンセルしてください。

警告【WARNING】！！

アイドリングスタート&ストップモードではハザード機能を使用しないことをお勧めします。もし双方の機能を同時に使用した場合、バッテリー電力は消耗し、再始動が困難になる恐れがあります。

(F) アイドリングスタート&ストップスイッチ

アイドリングスタート&ストップスイッチを  の位置にすることで、アイドリングスタート&ストップモードを有効にします。スイッチを「OFF」の位置にするとこの機能は終了します。 “

(G) スターターボタン



エンジンを始動する場合は、スターターボタンを押してください。

イグニッションキーをオンの位置に回します。スターターボタンは、前または後部のブレーキレバーを引いた状態で押し、エンジンを始動させます。

⚠ WARNING

- エンジンの破損を避けるために、エンジンの始動後にスターターボタンを押さないようにしてください。
- 安全上の理由から、エンジン始動時には必ずブレーキをかけておくこと。

USB チャージ (充電) ユニット(青色 LED 付き)

- 定格電圧:メインキー"オン"の状態、DC 12V 入力
- 電圧使用範囲:11.5V~15V
- 出力電圧:DC5V±0.5V、青色 LED オン
- 出力アンペア:2.0A±10%
- 高速充電サポート BC1.2、QC2.0、QC2.0、自動シフト
- 過負荷保護: 3.0±10A%青 Led オフ
- 過熱保護: 105 度を超えた場合、出力が遮断される。
気温が 90±10 °C まで下がると、出力が自動的に回復します。
- USB 防水カバー: USB ソケットは清潔で乾燥した状態に保つこと。カバーを適切に使用することで、ほごりが入るのを防ぎ、またソケットが錆びたり酸化することを防ぎます。

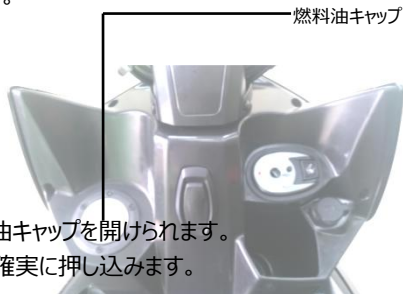


フロントコンパートメント

- ハンドル操作の悪化を避けるため、フロントコンパートメントに重量物を入れ過ぎないこと。
- 洗車時には、ここにもものを入れたままにしないこと。

燃料タンクキャップ

イグニッションキーを挿入し、反時計回りに回すことで、燃料油キャップを開けられます。
燃料を補充した後、キャップを“クリック”音を感じるところまで確実に押し込みます。

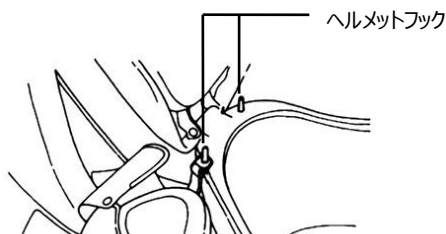


⚠ 危険【CAUTION】

- ガソリンは揮発性が高く、特定の条件下で爆発することがあります。燃料を供給する際に、喫煙しないこと。また、必ずイグニッションスイッチをオフにすること。換気が十分な場所であることを確認し、また可燃物を近くに置かないください。
- ガソリンをいっぱいまで入れないこと。ガソリンを入れ過ぎると、熱などによる膨張でガソリンがオーバーフローする恐れがあります。
- 燃料タンクキャップは給油後に確実に閉じられていることを確認してください。
- もし車体にガソリンをこぼした場合は、すぐに拭き取ること。

ヘルメットフック

- 座席を開き、ヘルメットフックにヘルメットを掛け、その後、座席をロックします。





⚠ 警告【WARNING】

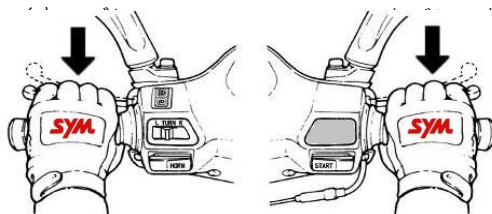
- 乗車中はヘルメットフックにヘルメットを掛けないでください。

ラゲッジボックス

- 荷物入れスペースは、座席の下にあります。
- 最大負荷: 10 キロ。
- 座席が正しくロックされているか確認してください。
- エンジンから伝わる高温のため、電気製品、新鮮な農産物、高蒸発物など、熱の影響を受けやすいものは入れないでください。
- スクーターを離れる前に貴重品をお忘れなく取り出しましょう。
- 必ず洗車前にラゲッジボックスから元は取り出しておくこと

ブレーキ

- 不要な急ブレーキを避けてください。
- 雨天時には速度を控え、ブレーキは早めに。
- 長時間にわたりブレーキを連続して使用すると、ディスクが過熱し、効きが悪くなる恐れがあります。
- フロントブレーキとリアブレーキの両方を使用して下さい。



A

B

乗客のフットレスト

- 後席に人を乗せる場合、フットレストを引き出します。A
- 使用しないときは、フットレストを戻し、格納します。B



⚠ 危険【CAUTION】！！

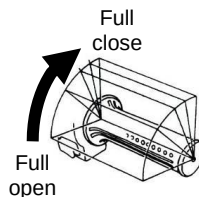
- 歩行者の安全を確保するため、使用しない場合は、フットレストを格納すること。

7.エンジンの始動方法

⚠ 危険【CAUTION】

- エンジンを始動する前にエンジンオイルと燃料を確認してください。
- 急な飛び出しを防ぐため、必ずエンジン始動時にはブレーキレバーを握っておくこと
- アイドリングスタート&ストップ機能を使える状態にするため、スイッチがオンになっているか、およびアイドリングスタート&ストップ機能のインジケータがオンになっているかどうかを確認してください。

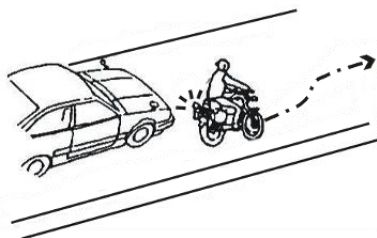
メインキーを  の位置に切り替えます。
スロットルを触らず、ブレーキをかけたまま、
スタートボタンを押します。



8.スクーターの乗り方

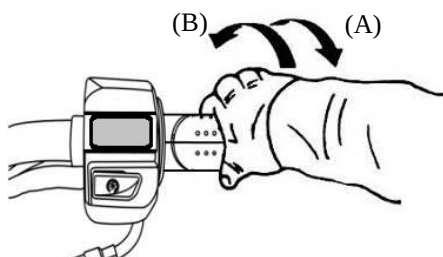
路肩から発進

- 路肩から発進する場合には、まずターンシグナルを点灯させ、周辺の安全を確認して路肩から出発しましょう。
- メインまたはサイドスタンドが格納されていることを確認し、移動を始めてください。



スロットルコントロール

- 加速するには、スロットル(A)をゆっくり開きます。
- 減速するには、スロットル(B)を閉じます。



駐車、及びエンジンの停止

駐車位置への接近

- ターンシグナルを点灯させ、他の車両に知らせるとともに、減速し、安全に道路から離れてください。
- スロットルを閉じつつ、フロントブレーキとリアブレーキを同時に使用して停止してください。

完全に停止

- ターンシグナルを停止させ、メインキーを" "位置に回してエンジンを停止します。

スクーターを停止させた後、スクーターの左側から降りて、水平な路面にメインスタンドで駐車します。
スクーターをロックし、スクーターを適切に駐車した後、イグニッションキーを取り外します。

⚠ 危険【CAUTION】

- 走行中にイグニッションキーの操作を行わないこと。
- 走行後、排気管は非常に高熱になります。歩行者や子供のいない場所に停車させること。また、排気管から可燃物を遠ざけてください。
- スクーターを長期間使用しない場合には、車両の始動性を維持させるため、毎週約 10 分間程度はエンジンを始動することをお勧めします。

トランスミッション

このスクーターには、変速装置として CVT メカニズムが搭載されています。CVT は、道路状況、荷重、速度、その他の要因に応じて、エンジンのパワーをタイムリーかつスムーズにホイールに伝達できる仕組みです。ギアチェンジの必要はありません。



9.仕様諸元

※スクーターの仕様や構造が変更され、オーナーズマニュアルやカタログの写真、図等と異なる場合は、実際のスクーターの仕様と諸元が優先されます。

モデル名	DRG BT(TB16W 1 – EU)
長さ/幅/高さ(mm)	1,990 / 735 / 1,130
装備重量/最大荷重	135kg/285kg
ホイールベース/シート高	1.380mm / 803mm
最小旋回半径	2.0 メートル
LED ヘッドライト(ハイ/ロービーム)	LED / LED
ポジションライト	LED
テール/ブレーキライト	LED
フロント/リアターンライト	LED
ターンシグナルインジケータ	LED
ハイビームインジケータ	LED
ヒューズ	20A×1、15A×1、10A×2、5A×3
バッテリー	GTX5L-BS/YTX5L-BS 12V 4.2Ah
スパークプラグ	CPR8EA-9 (NGK)
フロントブレーキ	ディスク(Ø 260mm)
リアブレーキ	ディスク(Ø 230mm)
タイヤ(フロント/リア)	120/70-13 130/70-13
タイヤ空気圧(フロント/リア)	1.8 kgf/cm ² / 2.3 kgf/cm ²
最高出力	10.9 kW / 8,000 rpm (14.8PS)
最大トルク	1.54 kgf-m / 5,500 rpm (12.0PS)
登坂力	28°
シリンダーボア×ストローク	Ø59.0mm×57.8mm
圧縮比/総排気量	11.2:1 / 158 cc
アイドル回転数	1,750 ±150 rpm
点火システム / 始動システム	フルトランジスタイグニッション / 電気スターター
燃料タンク容量	7.4 L
エンジンオイル容量	1.05 L(合計)、1.0 L(変更)
トランスミッションオイル容量	110 c.c.(合計)、100 c.c.(変更)



10.メンテナンスと調整

定期点検

項目		チェックポイント
エンジンオイル		十分なエンジンオイルが入っているか？
燃料		十分な燃料が入っているか？
ブレーキ	フロント	ブレーキレバーの遊び： 1～2cm
	リア	ブレーキレバーの遊び： 1～2cm
タイヤ	フロント	タイヤ空気圧：1.8kgf/cm ²
	リア	タイヤ空気圧2.3kgf/cm ²
ハンドルバー		異常な振動や操作困難なことはないか？
スピードメーター/ライト/バックミラー		正常に機能しているか？ ライトが点灯しているか？リアビューがはっきりと見えるか？
大型締め付け部品		ねじ、ナット、またはボルトの緩みはないか？
バッテリー		バッテリー電圧が 11.5V 未満ではないか？(20℃)

⚠ 注意【Caution】

- 定期点検で異常を発見した場合は、お買い求めの店もしくは SYM 正規販売店に連絡を。

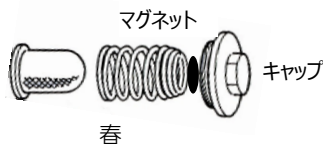
エンジンオイルの点検と交換

- メインスタンドで水平面にスクーターを駐車。エンジンを切って 2～3 分待ちます。オイルレベルゲージを取り外して洗浄、オイルレベルを確認するために挿入(締め付けしない)します。
- オイルレベルがゲージの上限と下限の間にあるかどうかを確認します。
- オイルレベルが下限にある場合は、オイルを上限まで補充してください。
- SAE 10W-30 または 10W/40 API SJ かそれ以上のグレードのオイルを使用してください。SYM は、不適切なオイルを使用したことによって発生したいかなるエンジンへのダメージに対しても責任を負いません。
- SYM では**"MOTUL"**を推奨しています。MOTUL 3100 Gold 10W40 をご使用ください。

エンジンオイルストレーナーの洗浄

- キャップとストレーナーを取り外します。ストレーナーをガソリン、または圧縮空気で洗浄してください。

ストレーナー



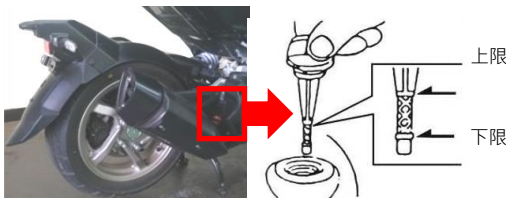
⚠ CAUTION

- キャップを取り外すと、ストレーナー、マグネット、スプリングが抜け落ちます。これらの部分を紛失しないよう注意してください。



⚠ 注意【CAUTION】

- オイルレベルは、サイドスタンドで停車させたり、水平面に停車させていないと正確に測れません。
- オイルを交換の間にストレーナーを点検してください。必要に応じて交換してください。
- エンジンオイルは、短距離を頻繁に使用するような場合、より短期間に消耗します。こうした場合、早めに交換しましょう。



燃料の点検

- 無鉛、92 オクタン（RON）かそれ以上のガソリンを補充することをお勧めします。イグニッションキーをオンにし、燃料ゲージの LED の位置を確認します。
- メインスタンドを立て、燃料を補充しましょう。エンジンは必ずオフであることを確認してください。
- 燃料タンクに燃料を入れすぎないようにしてください。

トランスミッションオイルの交換と点検

点検：

- スクーターを平坦な路面にメインスタンドで駐車する。
- エンジン停止後 3-5 分後に、トランスミッションオイルを排出します。
- 総容量は:110cc、定期メンテナンス時の容量は:100cc。

交換：

- ドレンボルトを確実に締め付けたのち、推奨されるオイルを補充してください。
- フィラーボルトを取り付け、漏れがないか確認します。オイル漏れがある場合は、お買い求めの販売店、若しくはお近くの SYM 正規販売店で点検するようお勧めします。

※推奨トランスミッションオイル:"MOTUL"3100GOLD 10W40。

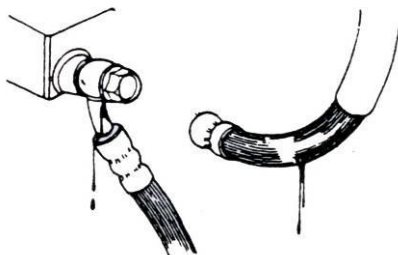
ブレーキシステムの点検

漏れの点検：

- ブレーキシステムに漏れがあるかどうかを目視で確認します。
- 接続ボルトが緩んでいるかどうかを確認します。
- ブレーキホース間、またはほかの部品との干渉がないか確認。
- もし損傷や漏れに気づいた場合、**かならずお買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店で点検/確認を。**

ブレーキパッドの点検：

- 前後のディスクブレーキのブレーキパッドの摩耗を、キャリパーの後ろ側から点検してください。もしブレーキパッドのライニングが線で示されている最小値に達した場合、必ずお買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店でブレーキパッドを交換してください。





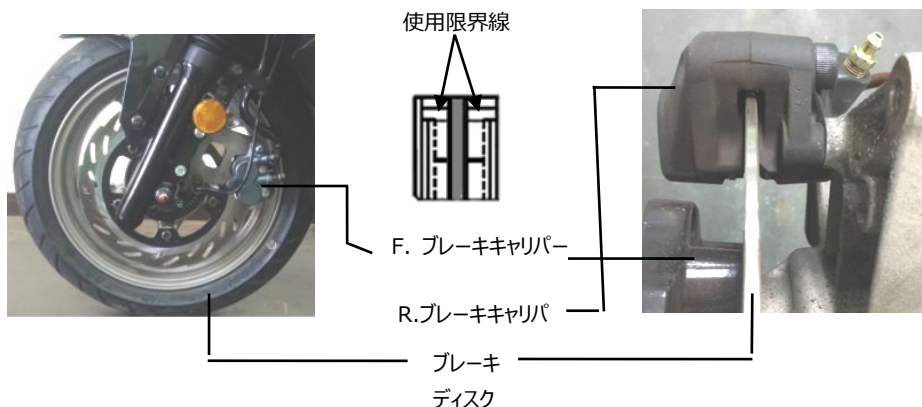
ブレーキフルードレベルの点検:

- スクーターを平地にメインスタンドで停車させ、ハンドルバーを正面にセット。リザーバーの点検窓からブレーキ液のレベルを確認してください。
- ブレーキフルード・レベルは点検窓の「MIN」マーク以上に達する必要があります。

推奨ブレーキ液: "MOTUL" DOT 3&4 Brake Fluid

⚠ 注意【CAUTION】

- スクーターが水平な地面に駐車されていない場合、ブレーキ液のレベルは正しく判断できません。
- DOT 3 または DOT 4 ブレーキ液のみを使用してください。
- プラスチック製の外装を傷めないよう、ブレーキ液をこぼさないでください。
- ブレーキ液の補充時には、外部から他の液体や汚れなどが混入しないよう注意してください。



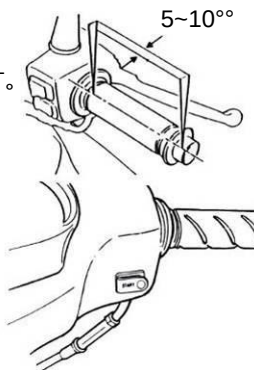
⚠ 注意【CAUTION】

- ブレーキ液を補充する際、エンジンは停止しておくこと。
- 定期的なメンテナンス時には、ブレーキ機構から汚れや埃を清浄して、ブレーキの騒音を低減し、ブレーキ力を高めるよう、併せて作業してください。



スロットルの遊びを点検

- スロットルグリップに $5^{\circ} \sim 10^{\circ}$ の遊びがあるかどうかを点検します。
- スロットルの遊びは、お買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店で点検を受けてください。

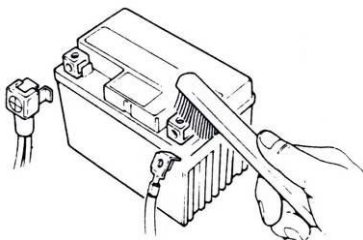


⚠ 注意【CAUTION】

- スロットルがスムーズに動作することを確認します。

バッテリーの点検

- このオートバイは密封式の蓄電池（シールドバッテリー）が装備されています。蒸留水を加える必要はありません。必要に応じて、お買い求めの販売店、または SYM 正規販売店で点検を受けてください。
- 電極（端子）が汚れているか錆びている場合は、清潔にしてください。次の手順を実行します。
メインスイッチをオフにします。
まず負の端子（-）を取り外し、次に正の端子（+）を取り外します。



⚠ 注意【CAUTION】

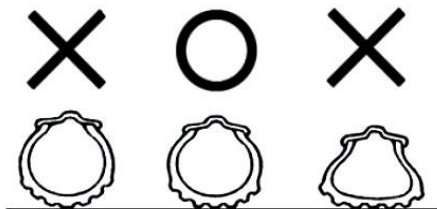
- ターミナル（端子）に白い物質が付着している場合は、温水で洗浄します。
- 錆が発生した場合は、ターミナルを取り外し、スチールブラシまたはサンドペーパーできれいにしてください。
- 洗浄後に、端末にグリースを塗布します。
- 取付は、取り外しの逆の要領で行ってください。

△ 注意【CAUTION】

- バッテリーのキャップ（ふた）を開けないでください。
- 長時間使用しない場合は、バッテリーをスクーターから取り出し、完全に充電し、換気の良い場所に保管してください。バッテリーをスクーターから取り外せない場合は、マイナス端子を取り外します。
- バッテリーを交換する前に、必ずメインキーをオフにしてください。
- エンジンが動作中は、バッテリーから正または負の端子を取り外さないでください。

タイヤの点検

- タイヤの点検や空気を入れる際には、必ずエンジンを停止させること。
- タイヤ圧力計でタイヤの空気圧を測定し、推奨空気圧に膨らませてください。



フロントタイヤ: 1.8 kgf/cm²

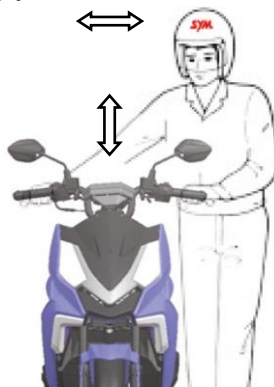
リアタイヤ: 2.3 kgf/cm²

- タイヤがひび割れたり切れたりしていないことを目視点検します。
- 小さな石や釘が溝に刺さっていないことを目視点検します。
- タイヤ溝磨耗インジケーターでタイヤの摩耗を点検します。
- 摩耗した場合はタイヤを交換してください。



ステアリングおよびフロントフォークの点検

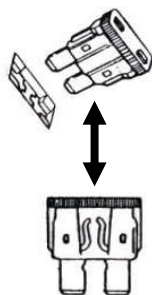
- 必ずエンジンを停止させた状態で点検してください。
- フロントフォークが破損していないか、オイルが漏れていないかどうかを目視点検します。
- ハンドルバーを押し下げて、フロントフォークを圧縮します。
フォークが異音なく、スムーズに動作するかどうかを点検してください。
- ステアリング・アクスル・ロックナットが正しく締め付けられていることを点検してください。
- ハンドルバーを左右いっぱいまで切り、ステアリングシステムがスムーズに動作することを点検してください。
- ハンドルバーがブレーキホースで引っ張られていないか、点検します。
- 安全のためにも、点検にはご購入の販売店か、SYM 正規販売店でお受けいただけますようお願いします。





ヒューズ点検

- メインキーをオフにします。
- ヒューズは、バッテリーの近くのヒューズボックスに取り付けられています。
- ヒューズボックスを開き、ヒューズを取り外します。
- 交換には、同じ仕様のヒューズをご使用ください。仕様外のヒューズや、ワイヤを使用することは厳禁です。
- 同じヒューズが繰り返し断線した場合は、お買い求めの販売店か、SYM 正規販売店にて点検をお受けください。



断線

7	20A BATT.	1
15A	5A EFI.	2
8	10A LIGHTS, WINKER	3
10A	5A BRAKE, HORN	4
9	5A ACCESSORIES	5
		6

ヒューズボックス上のステッカー（レイアウトシート）

1. バッテリー
2. EFI およびアイドリングスタート&ストップシステム
3. ヘッドライト、ポジションライト、ターンライト、および USB 充電ユニット
4. ホーンとブレーキライト
5. アクセサリ
7. ABS モーター
8. ABS 制御ユニット

ヘッドライトとテールライトの点検

- エンジンを開始し、ヘッドライトとテールライトが点灯しているかどうかを点検します。
- ヘッドライトの明るさと角度を点検します。
- ヘッドライトとテールライトのレンズが汚れていないか、壊れていないか、または緩んでいないかを点検します。

ブレーキライトの点検

- メインキーを「ON」の位置に切り替えます。
- 前後のブレーキレバーを別々に引き、それぞれでブレーキライトが点灯しているかどうかを点検します。
- ブレーキライトのレンズが汚れていないか、壊れていないか、または緩んでいないかを点検してください。

ターンシグナルライトとホーンの点検

- メインキーを「ON」の位置に切り替えます。
- ターンシグナルスイッチをオンにして、すべてのターンライトが正しく機能しているかどうかを点検します。
- ターンシグナルのレンズが汚れていないか、壊れていないか、または緩んでいないかを点検してください。
- ホーンボタンを押して、ホーンが鳴っているかどうかを点検します。

燃料漏れの点検

- 燃料供給システムに漏れがないか、点検してください。



全体の潤滑

- 定期点検スケジュールに従って、または雨の日の使用後などには、エンジンオイルまたは一般的な潤滑剤などで以下の部品を潤滑します。錆び等はきれいに取り除き、余分な油分や潤滑剤は拭き取ること。

サイドスタンドピボット

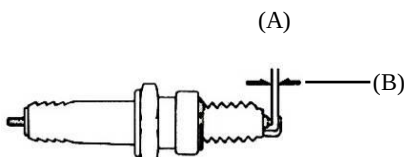
メインスタンドピボット

フロント/リアブレーキレバーピボット

スロットルケーブル

スパークプラグの点検

- スパークプラグの点検はお買い求めの販売店、若しくはSYM正規販売店に依頼してください。電極がひどく汚れていたり、堆積物があるような場合や、絶縁体が損傷している場合は、スパークプラグを新品に交換します。スパークプラグギャップ④の測定には、ワイヤータイプのシックネスゲージをご使用ください。ギャップは0.8～0.9 ミリメートル以内にする必要があります。調整が必要な場合は、側面電極⑤を慎重に曲げてください。



△警告：

- スパークプラグを点検する際は、エンジンの熱に注意してください。

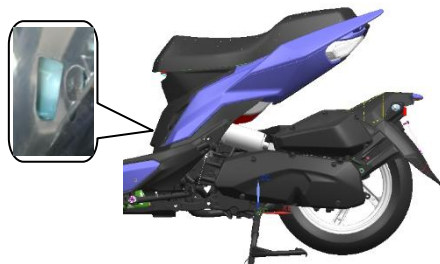
冷却システムの点検

《クーラントレベルの点検》

- 車両を水平な地面上で正立させます。
- クーラントレベルを、点検窓の上下の中間にあるかどうか、点検・確認してください。
- クーラントが下限値まで減っていた場合、上限地まで補充してください。

《クーラント漏れの点検》

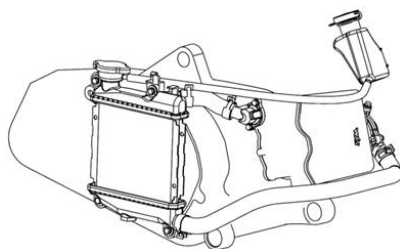
- ラジエーターとホースに漏れがあるかどうかを点検します。



クーラントの補充

冷却液が不足している場合は、クーラント・リザーバーにクーラントを補充しま

- 車体を水平な地面上で正立させます。
- クーラント・リザーバー・カバーを取り外します。
- クーラント・リザーバー・キャップを開け、クーラントを上限まで補充。
- もしクーラントが激しく減少している場合、点検が必要です。
- 冷却水の交換は、お買い求めの販売店か SYM 正規販売店





にご依頼を。

推奨品: JIS LLC グレード不凍液

クーラント容量: ラジエーター :**500** cc 、リザーバー:**170** cc。



注意【CAUTION】:

- 冷媒と不凍液を混ぜて生成する際には、水道水をご使用ください。
- 不適切な冷却液は、ラジエーターを損傷します。必ず正しいクーラントを選択してください。
- クーラントは、通常の使用状態で毎年交換する必要があります。

不凍液の混合比（参考テーブル）

- この車両には JIS LLC グレードの不凍液のご使用をお勧めします。不凍液の混入比は以下の通りです。

不凍液濃度	適用温度	注記
20%	-8	不凍液の性能を確保するために、新車装着の不凍液濃度は 50% である。
30%	-15	
40%	-24	
50%	-36	

- 冷却液を追加、または交換する場合は、**JIS LLC グレード**の不凍液をご使用ください。
- 極めて厳しい天候（気温が低く、悪店頭になるような状況）では、ラジエーターのメンテナンスには十分注意を払って行ってください。

エアクリーナーの点検

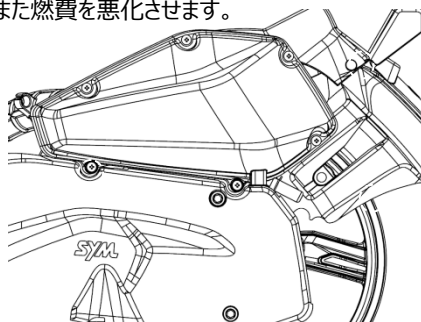
汚れたエアクリーナーエレメントは、エンジンの能力を悪化させ、また燃費を悪化させます。

〈取り外し〉

- ・ エアクリーナーカバーのスクリューを緩めます。
- ・ エアクリーナーカバーを取り外します。
- ・ エアクリーナーエレメントのスクリューを外します。
- ・ エアクリーナーエレメントを取り外し交換します。
- ・ エアクリーナーエレメントの交換後は、診断ツールを用いて、EFI システムをリセットします。

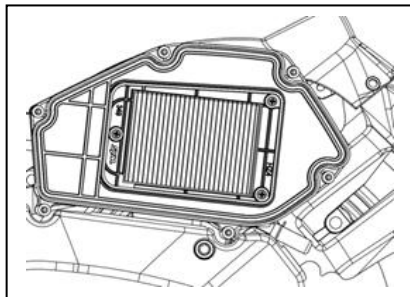
〈取り付け〉

- ・ 取り外しと逆の手順で取り付けます。



⚠ 注意【CAUTION】

- もしエアクリーナーが正確に取り付けられないと、吸気中の汚れ、チリなどがシリンダー内に混入し、シリンダーやピストンの損耗を速め、出力に影響し、エンジンの寿命を縮める恐れがあります。
- 車両を洗車する際には、エアクリーナーをぬらさないようにしてください。不用意に濡らすと、エンジンの始動が困難になる恐れがあります。
- 1,000kmごとにPCV(ブリーザーシステム)を点検し、混入している異物などを清掃してください。
- アイドルリングスタート&ストップスイッチをオンにすると、アイドルリング中にエンジンが停止するため、EFI システムはアイドル及びO2センサー状況を適切に得られません。アイドルリングスタート&ストップスイッチをオフにして、5,000kmごとにアイドルスピード学習を行うことをお勧めします。



11. スクーターを長持ちさせるために

洗車

洗車前にエンジン、マフラー、ブレーキ、その他の高温になった部品を完全に冷却します。マフラーの排気口を覆い、イグニッションキーを閉じることをお勧めします。

- 汚れを取り除くため、ホースから出る冷たい水で車両をすすいでください
- スクーターや自動車用に設計された中性洗剤と水をバケツに入れ、洗浄液を作ります。スポンジなどの柔らかいものを使って車両を洗車してください。
- 低圧の水流を使用してラジエーターを洗浄します。
- 洗った後、清潔な水でスクーターを十分に洗い流し、残留物を取り除きます。
- 圧縮空気などを用いて水を吹き飛ばし、清潔な柔らかい布を使用してスクーターを乾かします。
- 慎重に低速で車両に乗り、ブレーキを数回使用して、ブレーキを乾燥させてください。

注【NOTE】:

- ラジエーターを高水圧で洗車しないでください。
- 冬季などで塩分がまかれているような道を走行したあとには、車両を可及的速やかに洗車してください。
- マットカラー（艶消し色）に塗装された外装部品などをお持ちのお客さまは、洗車は特にご注意ください。艶消し面にはワックスなどは用いないこと。

中性洗剤と冷たい水の溶液でフロントウィンドウシールドを清掃してください。洗浄後によくすすいでから、清潔な柔らかい布で乾かします。取り外せない傷や洗い落とせない汚れによってフロントウィンドウシールドの透明度が低下した場合は、お買い求めの販売店か、SYM正規販売店に交換をご指示ください。



△ 警告【WARNING】:

- 事故の発生の恐れがあるため、車両が動いている状態では、ウィンドスクリーン洗浄しないでください。
- 損傷があったり、傷が付いているウィンドスクリーンを持つオートバイの運転はライダーの前方視界を悪化させるものです。これは極めて危険であり、重大な事故を引き起こす恐れがあります。

△ 注意【CAUTION】:

- バッテリー電解液のような、腐食性化学物質は、ウィンドスクリーンに損傷を与える恐れがあります。

保管 — 駐車場の用意をお願いします

スクーターを長期間保管する予定がある場合は、次の手順に従います。

- スクーターを徹底的に掃除します。
- エンジンを数分間動かして、止めてからエンジンオイルを排出します。
- 新しいエンジンオイルを注入します。
- 燃料タンクを燃料で満たし、燃料タンクの錆びや燃料の劣化を防ぐために利用可能であれば燃料スタビライザーを追加します。
- タイヤ空気圧を約20%減らします。スクーターの前後両輪を地面から浮かしてください。
- 錆を防ぐために、すべての未塗装の金属表面に慎重に薄い油を塗布してください。
- すべてのケーブルとドライブチェーンを潤滑します。
- バッテリーを取り外し、完全に充電してください。涼しく乾燥した場所に保管し、月に1回充電してください。寒い天候の間にバッテリーが十分に充電されていることを確認してください。
- マフラーをビニール袋等で完全に覆い、水分等が侵入しないようにしてください。
- スクーター全体をカバーなどで覆い、ほこりや汚れから保護します。

注意【NOTE】:

- スクーターを保管する前に、必要な修理をすべて行ってください。

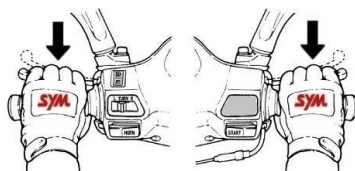
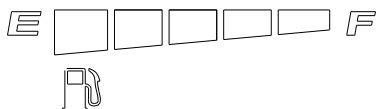


12.トラブルシューティング

エンジンが起動しない



1. イグニッションキーは ON の位置に動かし了吗？

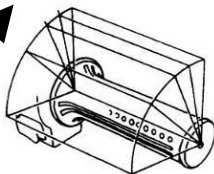


2. 燃料タンクに十分な燃料がありますか？
燃料ゲージ LED が“E”位置に来ていませんか？

3. スターターボタンを押すとき、フロントブレーキまたはリアブレーキを握っていますか？

完全に閉じる

フルオープン



ターニングナル

スイッチ

ホーンスイッチ



4. スターターボタンを押すときには、スロットルは確実に閉じておいてください。

5. イグニッションキーを“ON”の位置に回し、ホーンボタンを押してください。もしホーンが鳴らない場合はヒューズが断線した可能性があります。

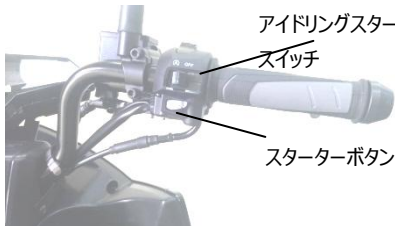


EFI 警告インジケータ

アイドリングスタート&ストップ

スイッチ

スターターボタン



6. EFI 警告インジケータが点灯した場合は、お買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店にお問い合わせください。

7. イグニッションキーが ON になっているのにエンジンが始動できない場合、お買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店にご相談ください。



13.定期メンテナンススケジュール

No	項目 \	メンテナンス（距離）	1,000km ごとに	6,000km ごと	12,000kmごと	18,000km ごと
	メンテナンス間隔		1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年
1	エアクリーナーエレメント*		点検	清掃	交換	
2	オイルフィルター（メッシュフィルター）		点検	12,000kmごとに清掃		
3	エンジンオイル		(1,000kmでイニシャル、6,000km000kmで2番目、その後5,000kmごとに交換)			
4	タイヤ空気圧		点検	点検		
5	バッテリー		点検	点検		
6	スパークプラグ		点検	点検		交換
7	スロットルバルブのカーボン異物洗浄		点検		点検	
8	ステアリングベアリングとハンドル		点検	点検		
9	トランスミッションのオイル漏れ点検		点検	点検		
10	クランクケースのオイル漏れ点検		点検	点検		
11	トランスミッションオイル		(最初の交換は1,000kmで、そしてすべての交換 その後12,000km)			
12	ブレーキフルード		点検	30,000km ごとに交換する		
13	ドライブベルト/ローラー/ドライブプリー				清掃	交換
14	燃料タンクチューブおよび燃料フィルター		点検	点検		
15	スロットルバルブ操作およびケーブル		点検	点検		
16	ボルトとナット		点検	点検		
17	カムチェーン		点検		点検	
18	バルブクリアランス		点検		点検	
19	ショックアブソーバー		点検		点検	
20	フロント/リアサスペンション		点検		点検	
21	メイン/サイドスタンド		点検/注油		点検/注油	
22	クランクケースブローバイシステム(PCV)		点検	清掃		
23	クーラント		点検	点検		交換
24	冷却ファン、チューブ		点検	点検		
25	クラッチ、クラッチアウター、ドリブンプリー				清掃	
26	ブレーキ機構/ブレーキライニング(パッド) **		点検	点検		
27	ライト、スイッチ、電気システム		点検	点検		



*ほこりっぽい環境下では、5000km ごとにフィルターを交換してください。フィルターを洗淨する時には、圧縮空気を使用しないでください。必要に応じて交換してください

**10,000 km毎に、ブレーキキャリパー、マスターシリンダー及びそれぞれの内部構成部品を清掃し、必要に応じて交換してください。

ブレーキ液を 2 年/30,000km ごとに交換してください。

ブレーキホースを 4 年/60,000km ごとに交換してください。

☆上記のメンテナンススケジュールは、走行距離または期間のいずれかが指定されたメンテナンス基準に達した場合に行う必要があります。

スクーターに関する問題や質問が発生した場合は、サービススケジュールにこだわることなく、お買い求めの販売店、若しくは SYM 正規販売店にお問い合わせください。

☆車両を最適の状態でお使いいただき、またそのコンディションを維持するためにも、定期的にお買い求めの販売店か、SYM 正規販売店にお持ちになり、点検を受けてください。

☆頻繁に高速運転をしたり、長距離運転を行ったとき、あるいはほこりっぽい環境などでご使用の場合など、必要に応じてより頻繁に車両を点検することをお勧めします。



保証約款

保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理は SYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品を SYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題
機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体のしみなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状
車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品
車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失） SYM 純正品以外の部品

アクセサリやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定ののっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。

モータリスト合同会社